

*Made in Aomori House*

# 県産材 地産地消ビルダー事例13

- 01 株式会社 大山建工
- 02 株式会社 ヤマノアーキデザイン
- 03 企業組合 県木住
- 04 有限会社 キーポイントホーム
- 05 株式会社 日本の窓
- 06 1952HINOKIYA 一級建築士事務所／有限会社 赤穂工務店
- 07 1952HINOKIYA 一級建築士事務所／有限会社 家口建設
- 08 株式会社 木組工務店（シェアオフィス BLUE）
- 09 株式会社 木組工務店（青森ねぶたサウナ）
- 10 株式会社 木組工務店（サードプレイスミサワ）
- 11 株式会社 木組工務店（みんなのいばしょ あご〜る）
- 12 有限会社 林工務店
- 13 有限会社 岩木建設

*Aomori Wood Fan Event*

チーム県産材「縁むす日」

*Aomori Wood Reform Event*

株式会社 今井産業「2024 住まいとお庭のリフォームフェア」



# OOYAMA KENKO

*Made in Aomori House*

01

## 大工の技術と情熱を注ぎ込んだ 令和の数寄屋建築

株式会社 大山建工

文=吉田 真緒 写真=大山建工 提供  
text:Mao Yoshida photo:Ooyamakenko

## 四季折々の自然を慈しむ 伝統的な日本の美意識

日本の伝統である数寄屋建築の住宅が、三沢市に誕生しました。敷地1,200坪、建坪200坪という、類を見ない広さの平屋で、完成までに約6年の歳月をかけたといえます。県内の原木を調達するところから始め、大工が手刻みで加工した木材を使っています。

数寄屋は約400年前、千利休により茶の湯が盛んになった時代に、人をもてなす茶室として生まれました。様式よりも精神性を重んじて受け継がれ、現代では茶室に限らず茶室の趣をもつ建築の総称となっています。

四季を愛し自然を慈しむ心から、庭と建物が一体となる「庭屋一如（ていおくいちによ）」の空間を求めたという今回の数寄屋。賓客を迎え入れる表門は、広い屋根を2本の丸太のみで支えており、大工の技術力がうかがえます。扉に組まれているのは樹齢200年を超える南部産のスギ。大山建工の会長が秘蔵していたものを、この建築のために提供したといえます。

アプローチには、冬の長いこの地に春の訪れを告げる、花実をつける木々が連なり、正面玄関の手前には穢れを落とす手水が。園路を進むと、ゆるやかな丘陵の芝が広がり、石で水を表現した「枯れ流れ」が橋の下を通して建物へと流れ込んでいます。枯れ流れの源流は、巨石を滝に見立てた「滝口」です。庭の中心である滝口に立つと、建物の全貌を望むことができます。雁行した屋根に、庭に沿って軒を極力低くしたというその佇まいは、景色と調和し自然の一部のよう。園路はさらに、「もみじ山」と呼ばれる通りを抜け西の玄関へと続きます。このように、庭園では歩みとともに移り変わる自然のストーリーを味わえます。

雁が隊列を組んで飛ぶ姿に由来する雁行の屋根は、庭に沿うように低く、内外の空間を一体化させる。





## 原木から調達した大木を贅沢に使った

### ていおういちによ 「庭屋一如」の住まい

正面玄関を入り、厚さ15cmもの一枚板の敷台から建物に足を踏み入ると、木のよい香りに包まれます。そして、「水鏡」という深さ20cm強、幅6m、長さ最長21mの、水をはった空間が目飛び込んできます。ここを囲むかたちで建物が設計されているのです。水鏡では、風がふくたびに細波が生まれ、夜には各部屋の明かりが幻想的に浮かびあがります。水は井戸水を利用しており、冬季に屋根から落ちる雪を溶かす機能も兼ねています。

この住宅には2世帯が暮らしており、ご両親のLDKから庭園を望むと、先ほどの枯れ流れが建物の下をくぐり、水鏡に続いていることがわかります。一方、若いご夫婦のLDKからは、芝が広がる静かな表情の庭園が見られます。いずれも、室内の天井の勾配がそのまま軒裏へ続いており、さらに庭へとつながっていく……まさに庭屋一如の景観です。また、後者の部屋は垂木材を組んだ天井

が特徴的で、低い軒先の外観とはうってかわって、内には豊かな空間が広がるという、高度な技術を要する構造をしています。

水鏡を挟んで反対側には和室が3部屋並んでおり、親族が集まれるよう、ひと続きにできる仕様です。そのため天井には各部屋をつらぬいて長さ9m幅80cmにもおよぶスギの一枚板がはられており、一体感がもたらされています。これほど荘厳な板をはれるのは、大山建工が長年原木の調達を行い、“木を見る目”を培ってきたからこそ。

和室から水鏡へ目を向けると、水面から軒裏へと反射した太陽光が揺らめいており、なんとも趣があります。細部にわたり意匠が凝らされた設計と、それを叶える職人の技が結集された建築には、時代を超えて受け継がれてきた日本の美が表現されていました。



1.節目も割れもなく見事な天井板と、それを支える柱と梁。2.若いご夫婦のLDK。天井の垂木は、高いところで長さ3.5mにおよぶ。3.正面玄関を入ると広がる光景。4.応接間の天井はスギの柱を市松に編んでおり、間接照明が美しい凹凸を照らす。

## DATA | 物件概要

施設名：一般住宅  
構造及び階数：木造平屋建て  
建築面積：672.74㎡  
延床面積：590.15㎡  
完成年月日：2024年12月28日

設計者：前田伸治  
暮らし十職 一級建築士事務所  
施工者：建築／株式会社 大山建工  
庭園／鈴木造園

## 【県産材の使用状況】

構造材：梁、柱へアカマツ、スギ  
内装材：床にアカマツ、ナラ、天井にスギ  
外装材：濡れ縁にクリ

## BUILDER'S DATA | 工務店情報

### 株式会社 大山建工

八戸本部／青森県八戸市大字河原木字千刈田7-1

Tel:0178-21-3055 Fax:0178-21-3033

eigyo@ooyamano-ie.jp

<https://www.ooyamano-ie.jp/>





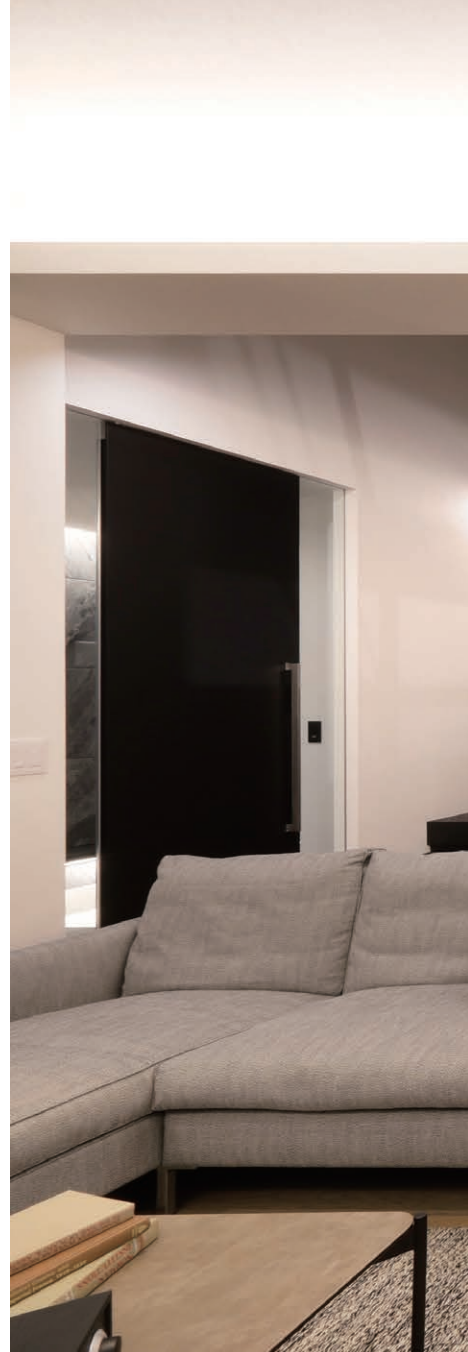
*Made in Aomori House*

02

# ハイクオリティーな 建築デザインで魅せる家

株式会社 ヤマノアーキデザイン

文＝井藤 雪香 写真＝ヤマノアーキデザイン 提供  
text:Yukika Ito photo:Yamano Archi Design





細部にまでこだわる建築デザインにより、ラグジュアリーな雰囲気醸成リビングダイニングキッチン。構造の土台、柱、桁、小割材に県産材を使用。

## 上質な暮らしを体感できるモデルハウス

見た目はもちろんのこと、構造、性能から資金計画までこだわり抜いて住まいをデザインするヤマノアーキデザイン。「デザインだけじゃないデザイン」をテーマに、ハイクオリティーな住宅を手掛けています。2024年に五所川原市の「エルムECOタウン-Part 8-」にオープンしたモデルハウスは、まさにハイクオリティーで美しくデザインされた家。住まいに上質な空間を求める方に、ワンランク上の暮らしを提案しています。

1階にプライベートガーデンを眺める約26帖のリビングダイニングキッチン、リビング階段を登った先の中2階に子ども部屋とサニタリースペース、2階にロフト付

きの主寝室を配置。漆喰、木材、アイアン、カーペット、タイルなどのさまざまな建材を巧みに組み合わせ、落ち着いた色調でまとめた洗練されたインテリアです。キッチンなどの設備機器も、ハイクオリティーなものを厳選しています。

上質な空間では、暮らしに必要な雑多なものを片付けるための収納がより重要となります。このモデルハウスでは1階のパントリー、2階の脱衣室で整理収納アドバイザーによる収納プランを提案。デザイン住宅での暮らしをよりイメージしやすくなっています。



遮光性を高めた寝室。写真右手の収納部の奥には、隠れ家のようなロフトがある



2階のランドリールーム隣に配したウォークインクローゼット。  
家族の衣類をまとめて収納できる大容量

## 豊かに住もうための 住宅の性能

IoT技術を活用した「スマートホーム」であることも、このモデルハウスの大きな特徴です。家庭内のあらゆる電化製品や住宅設備をインターネットでつなぐことで、便利な暮らしを実現。例えば照明の点灯・消灯や、ブラインドの開閉など、日常のちょっとした動作はスピーカーに話しかけるだけで行えます。また、スマートフォンを使って外出先から家の状況を確認することもできます。このようなさまざまな機能によって、生活の質を高めることができます。

さらに同モデルハウスは、IT技術を活用してエネルギー消費の抑制を図る「スマートハウス」でもあります。太陽光発電システムでつくった電気を蓄電池にためて使い、電気使用状況を見える化して管理する「HEMS（ヘムス）」を設置することで、エネルギーの自動制御を可能にしています。

同社標準の「ジョイ・コス住宅システム」による硬質ウレタンパネル、気密施工、24時間換気システムも省エネにつながり、空気環境を年中快適にデザイン。意匠の美しさと多彩な性能を併せ持つ家です。

## 環境と未来のために 県産材の積極的活用を

青森県産材をふんだんに使う家づくりも、同社がこのモデルハウスに寄せた想いのひとつです。「青森県の木を使うということが、これから必要になる」と、社長の工藤晃史さん。「現状では青森県の木多くは県外で使われていて、県内の業者が青森県産の木を使うことは少なく、このままではいけないと思っています。例えば直近でいえばコロナ禍の際にウッドショックが起きました。県外や海外の木をあてにしていると、そういうことが起こるのです。備える意味でも、青森県産材を上手に使っていかねばなりません」と話します。同モデルハウスは、土台に青森ヒバ、柱や桁、小割材に青森県産スギ、梁に青森県産アカマツなどが使われています。「見えなくなる部分でも使っていく。そういうことを、心がけとしてやっていきたいですね」。

伐採した県産材を使うことは、環境にも優しい活動です。ハイクオリティーでありながら、周囲の課題にも目を向ける同社の家づくりをモデルハウスで体感してみませんか。



寝室ではホームシアターを楽しむ。  
スクリーンの上げ下げやブラインドの開閉はIoTデバイスによりすべて自動



リビングはプライベートガーデンとつながり、視線を気にせず外に出られる

### DATA | 物件概要

施 設 名 : モデルハウス pt.8  
構造及び階数 : 木造2階建て  
建 築 面 積 : 128.78㎡  
延 床 面 積 : 140.54㎡

設 計 者 : ヤマノアーキデザイン  
施 工 者 : ヤマノアーキデザイン

### 【県産材の使用状況】

構 造 材 : 青森ヒバ、スギ、アカマツ

### BUILDER'S DATA | 工務店情報

#### 株式会社 ヤマノアーキデザイン

青森県北津軽郡鶴田町大字境字北原73-24

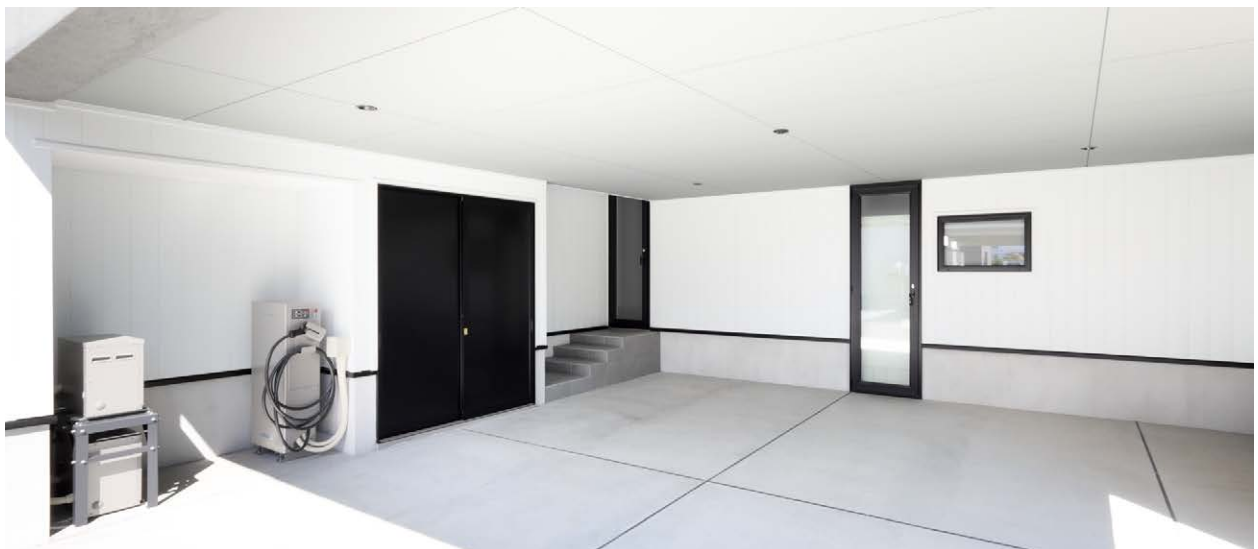
Tel: 0173-22-6789 Fax: 0173-22-5472

info@yamano-archi.co.jp

<https://yamano-archi.com/>



ガレージからはパントリーにも玄関にも雨に濡れずに入ることができる。蓄電池も設置



# 木の家への憧れから始まった家造り 施主の思いを形にした 長く住み続けられる家

## 企業組合 県木住

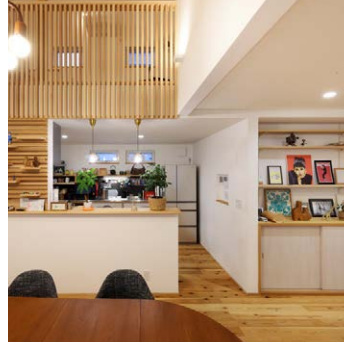
文=工藤 健 写真=今井 聡  
text:Takeru Kudo photo:Satoshi Imai

### 環境に優しい家造りのスタート

パッシブデザインを取り入れ、天然の無垢材を使用した家にしたかったと明かす施主の永山淳造さん。パッシブデザインとは、自然エネルギーを最大限に活用して快適な住環境をつくり出す設計手法のこと。季節ごとの特性に合わせた環境に配慮した住宅をデザインすることである。パッシブデザインにこだわったのは、以前建てた永山さんの家が、有名住宅メーカーの商品で、冷暖房をつけることを前提に造られていたことから。不満は特になかったというが、近年のエネルギー価格の高騰がある中で、冷暖房をつける生活が当たり前になっていることに疑問を持っていたという。天然の無垢材にしたかった理由は、木材への憧れ。木材の持つ温かみのある雰囲気や化学素材を使わない体に優しい住宅を持とうと思ったことからだった。

JR弘前駅から徒歩数分にある敷地面積約120坪の場所を永山さんが取得し、家を建てようとして計画したのは3年前。当初は県産材というキーワードは思い浮かばず、「無垢材で家を建てたい」と考えていただけだった。工務店を探していたところ、偶然見つけたのが企業組合県木住。無垢材での建設実績は十分にあった県木住から、自然素材を使う理念や県産木材を使った家づくりを教えてもらったという。より環境にやさしく、愛着を持てる家に住みたい。そんな思いが決め手になった。何より事務所の居心地が快適だったことが施工を依頼した大きな理由だったと永山さんは微笑みながら振り返る。





木のぬくもりを足からも感じられるように床も木製。木材の節（ふし）にも味わいがある



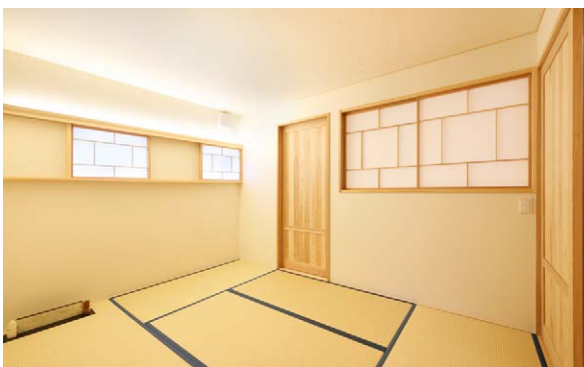
開放的な吹き抜けにしたことで、空気の流れができただけでなく、反響音も良くなり、音響環境も良くなったという

## 取捨選択がはっきりしていた

県木住の佐藤時彦さんによると、永山さんにはすでに建てたい家のイメージができており、間取りもすでにできあがっていたという。パッシブデザインといったアイデアも打ち合わせの当初からあった。永山さんとの打ち合わせは、実現性があるかどうかを話し合うことがメインの議題になった。例えば、ソーラーパネル。設置には7メートル×5メートルの広さが屋根に必要となり、片流れ屋根を採用。ビニールクロスや接着剤などの化学素材は使わない県木住のスタイルに共感して、壁は漆喰となり、天井は和紙壁紙となった。



1階だけで生活が完結できるよう寝室は1階にした。段差をなくし、廊下を広くするなどのバリアフリーにしている



一方で、洗面所やキッチンは最低限の機能で十分と決めていた。食洗機や収納ラックなどには多くの機能性を求めがちになるが、永山さんからの要望は少なく、予算を掛けるポイントが決まっていたため、打ち合わせは楽だったと振り返る佐藤さん。永山さんの希望としてあったことは、10年20年と長く住むにあたって、生活が1階だけで成り立つような間取りにしたいということ。寝室を1階にしたのは当初からあったアイデアで、2階へ上がることが億劫になってしまうことを想定したつくりになっていた。佐藤さんはそれに車椅子でも通れるような廊下を広げるなどのアイデアを加えた。さらに足腰が弱くなくても昇りやすくなるように階段の段差を低く設定。長く住み続けたいという施主の希望に寄り添った家となった。

## 県産材にして実現できたこと

永山さんが住み始めて1年以上がたった。四季を通して当初の目的が実現できた家になったと実感している。屋内を、永山さんは裸足で生活をするようになった。県産の木のぬくもりや温かさを、肌で感じ、当初の目的だった温もりのある家に住むことができている。朝夜の寒暖差の厳しい青森で、常に一定の室温と湿度を保っていることに驚きを隠せないと永山さん。夏場でもエアコン1台で十分涼しく、冬は薪ストーブだけで家全体が適温で、冷暖房費の削減につながっている。

さらに木目や木肌を目で感じながら落ち着くことができるようで、視覚効果もあった。1階から見る吹き抜けをソファに寝転びながらスマホで写真を撮ることもあるという。また、家に人を招きホームパーティをする機会も増えた。客人をもてなすことが多くなり、より温かい家にもなっているようだ。今後は家庭菜園を始めることが目標という。まだ手をつけられていないが、長く住む家だからこそ、ゆっくりと時間をかけて作っていくことだろう。



小型の薪ストーブ1基だけで冬でも家全体が温かくなるという。  
煙突は2階を突き抜けて直線的にすることで、メンテナンスもしやすい



JR 弘前駅から徒歩5分ほどの立地。  
南向きで日を遮る建物がなかったことも場所を選んだ理由の一つ

### DATA | 物件概要

施設名：一般住宅  
構造及び階数：木造2階建て  
建築面積：118.97㎡  
延床面積：168.53㎡  
完成年月日：2023年11月10日

設計者：企業組合県木住  
施工者：企業組合県木住

### 【県産材の使用状況】

構造材：土台に青森ヒバ、柱にスギ、  
梁にアカマツ  
内装材：床にスギ  
外装材：外壁・下見板にスギ

### BUILDER'S DATA | 工務店情報

#### 企業組合 県木住

青森県青森市浪岡大字徳才子字福田60-2  
Tel:0172-55-7793 Fax:0172-55-7559  
info@kenmokuju.com  
<https://www.kenmokuju.com/>



*Made in Aomori House*

04

# 県産材で実現した健康な空間 家族とともに育つ住まい

有限会社キーポイントホーム

文=小田切 孝太郎 写真=有限会社キーポイントホーム 提供  
text:Kotaro Odagiri photo:Ki- Point Home's

# Ki-POINT HOME'S

ロフトは工藤さんお気に入りの空間。左壁面の通風口が空気循環で重要な役割を果たします。



青森の自然風景にも馴染む外観。

## 自然素材の家を求めて

「青森の気候風土を体感して大きくなった木ですから、それを活用することで過ごしやすい家になるんです」と語るのは有限会社キーポイントホーム代表の阿保勝之さん。県産材と自然素材を採り入れた、高気密・高断熱住宅を数々施工してきた同社。そのひとつが平川市の工藤さん宅です。ダークブラウンの外壁に片流れの大屋根、南側の大きな窓をポイントに、スクエア型の小窓を配した外観は、まるで山小屋のよう。施主の工藤さんは以前、長野県の山小屋で働いており「無意識のうちに山の雰囲気合う家に惹かれていたのかも」と話します。

高齢の両親のことや家族と過ごせない働き方に疑問を感じ、故郷での新たな暮らしを決意したのは3年前のこと。子どもたちがアレルギーを持っていたので、健康面に配慮した自然素材の家造りをテーマに、青森県内のみならず、当時の拠点だった長野県の工務店も巡って、出会ったのがキーポイントホームでした。「県産材や自然素材のこと、子どもや親の健康、省エネのことなど、阿保社長の説明は『それら全てが快適な暮らしに繋がる要素だよ』というもので、説得力を感じました」と工藤さんは振り返ります。

1. 高齢の両親のことを考えて造られた広い玄関。
2. ウォークスルーでアクセス玄関収納。



## 県産材を使うには理由がある

入った瞬間から木の温かみに包まれる室内。収納棚や天井、カウンターや化粧柱など、青森県産のスギをふんだんに活かした空間が広がります。床材は柔らかく肌触りが良いスギで統一され、素足で触れるのが気持ちよさそう。工藤さんはスギが飴色に変化していく様子を楽しんでいるとのこと。見えない部分ではありますが、構造材の土台には青森ヒバを用いています。「ヒバはシロアリや湿気に強く、寺社仏閣にも使われる強い木。古くても良いものは採り入れることを意識しています」と阿保さん。LDKの一角には両親のために設けた畳スペースがあります。ここの畳はキーポイントホームオリジナルで、近年は藁床にスタイロフォームが使われる製品も多いですが、天然材を使用した昔ながらのづくり。調湿・調温効果を持ち、健康的な暮らしに一役買っています。

暖房設備は薪ストーブのみ。煙突が通る開口部や階段を伝って家の最上部へ上昇した熱は、ロフト部分の通風口を通してじんわりとリビングや家中に行き渡ります。

さらに、木が持つ蓄熱効果も暖かさを保つポイント。一方で夏は、キッチンからの眺望を考えた大きな窓から涼しさを取り込みます。工藤さん曰く、夏もエアコンいらずで快適に過ごせたとのこと。空気の循環をコントロールする仕組みをつくってあげることは省エネにも繋がり、高気密・高断熱住宅のメリットを最大限に活かした住まいを実現しているのです。



中央に配したキッチンからリビングを見渡せるよう開放的に考えられた LDK。



1. LDK の大きな窓は眺めもさることながら、風を取り込む役割も担います。
2. 暖房は薪ストーブのみ。ランニングコストも抑えながらも暖かく過ごせます。
3. 室内空間は床、天井、棚などスギ材をふんだんに使用。



1. 蓄熱性もあるオリジナル畳が敷かれたスペースが両親の憩いの場所。2. 各所に備えられた棚が空間のアクセントに。3. 階段は冷・暖気を部屋に行き渡らせる役目も果たしています。4. 子供部屋などがある2階はコットンクロスと漆喰の壁で統一。5. 手洗い用のスペースはタイル張りで愛らしく。

## その人らしい家を提案したい

室内の壁には調湿性に優れ、汚れた際の上塗りも可能な漆喰を。一部は阿保さんが塗り方と補修方法を教えながら、奥さんが仕上げました。「メンテナンスの仕方は惜しみなく仕お伝えします。自分でやれる人はDIYすればいいし、難しければプロに頼めばいい」と阿保さん。同社ではユーザー向けのワークショップを開催するなど、長く暮らすための住宅との付き合い方を提案しています。心もストレスなく暮らせるのがキーポイントホームの目指す家造り。吟味した素材と居住空間、冷暖房の燃費もよい工藤さんのお宅は、そんな同社の想いが込められた住まいです。

家中どの部屋にいても木の温もりを感じられます。



## DATA | 物件概要

施設名：一般住宅  
構造及び階数：木造2階建て  
建築面積：92.37㎡  
延床面積：128.61㎡  
完成年月日：2023年12月19日

設計者：有限会社 キーポイントホーム  
施工者：有限会社 キーポイントホーム

### 【県産材の使用状況】

構造材：土台に青森ヒバを使用  
内装材：床・壁・天井・カウンター・収納棚にスギ使用

## BUILDER'S DATA | 工務店情報

### 有限会社 キーポイントホーム

青森県弘前市泉野3丁目11-11  
Tel:0172-88-7705 Fax:0172-88-7706  
staff@ki-pointhome.com  
<https://ki-pointhome.com/>

